

2023 年度 一般社団法人日本くすり教育研究所 事業報告

概要

青少年への医薬品教育、薬物乱用防止教育を中心に、飲酒・喫煙の害、アンチドーピング教育、さらには薬剤師を主とする医療従事者、教員への啓発活動など、会員の専門分野での活動の充実に取り組んだ。ZOOM によるオンラインでの研修会開催も実施をした。また、保護者への情報発信・啓発活動にも取り組んだ。

1. 会員数の増加のための広報活動と正会員の活動への積極的参加を呼びかけた

2024/3/31 現在 メルマガ会員： 1,916 名(前年：1,797 名)

正会員： 94 名(前年：94 名)

賛助会員： 2 社（4 口）(前年：2 社)

(株式会社小学館集英社プロダクション、佐藤製薬株式会社)

企業からの寄付金：なし

2. 『おくすり教育推進協議会』を 3 回開催した

日本くすり教育研究所と東京都西武薬剤師会の共催により『おくすり教育推進協議会』を 3 回開催し、合計 118 名が参加した。

* 第 8 回おくすり教育推進協議会（参加者 45 名）

日程：2023 年 7 月 15 日

会場：ZOOM ミーティングによるオンライン開催

* 第 9 回おくすり教育推進協議会（参加者 22 名）

日程：2023 年 11 月 11 日

会場：ルネこだいら（小平市民文化会館）レセプションホール（B1）

* 第 10 回おくすり教育推進協議会（参加者 51 名）

日程：2024 年 3 月 16 日

会場：ZOOM ミーティングによるオンライン開催

薬剤師がかかわる『医薬品の適正使用』および『薬物乱用防止』教育の推進と充実を図るための研修会を開催した。参加対象者を東京都西武薬剤師会（清瀬市、小平市、西東京市、東久留米市、東村山市の 5 市より構成）会員で“この活動に関心のある薬剤師”および同エリアの“学校薬剤師”と限定して呼びかけて行った。オンライン開催だけでなく、会場でも研修会を開催した。アンケート結果【別紙資料】などを検討しながら、引き続き開催を継続することとした。

小中学校における『おくすり教育』推進のための『薬の正しい使い方』に関する標語募集事業及び啓発事業

東京都西武薬剤師会エリア内の公立小中学生を対象とした『薬の正しい使い方』に関する標語募集事業を行い、入賞作品を掲載したクリアファイル、ポスター作製して、小中学校、市民への医薬品適正使用の啓発活動の際に活用予定【別紙資料】。

3. ホームページの充実を図った

- ・ ホームページコンテンツ（ニュース・活動報告など）を順次更新した。
※アクセス数 PV（閲覧件数）：35,045、UU（訪問者数）：16,021
- ・ 会員に向けて毎月メールマガジンにより活動報告や情報提供を行った。
- ・ 「知っておきたい健康情報」のコーナーを新設した。「紫外線」「食中毒」「熱中症」「食物アレルギー」のコンテンツを掲載した。

4. 医薬品教育などの健康教育を実施した

- ・ 学校における健康教育（医薬品教育、薬物乱用防止教育など）
- ・ 2023 年度に会員が指導した児童生徒の人数（ホームページで活動報告された人数）は 6,109 人（前年度：7,637 人）
- ・ 2023 年度に加藤代表理事が指導した児童生徒の人数は 4,701 人【別紙資料】
- ・ 一般市民への健康教育・指導者研修等の活動
2023 年度に加藤代表理事が指導した回数は 9 回【別紙資料】
- ・ 登録販売者研修のための教材作成（監修）
- ・ 『学校薬剤師が提案する保健だより素材サンプル集』の冊子版を希望する会員に配布した。
- ・ くすり教育用動画 DVD「教えて！クスリン」を希望する会員に配布した。

5. 令和 5 年度薬物乱用防止啓発訪問事業（厚生労働省委託業務）

令和 5 年度薬物乱用防止啓発訪問事業（厚生労働省委託業務）（(株)小学館集英社プロダクションパブリックサービス事業部）について、ホームページでの活動内容や、資材の入手法、講師としての参画方法などを紹介した。

6. 他団体・企業からの依頼、相談対応

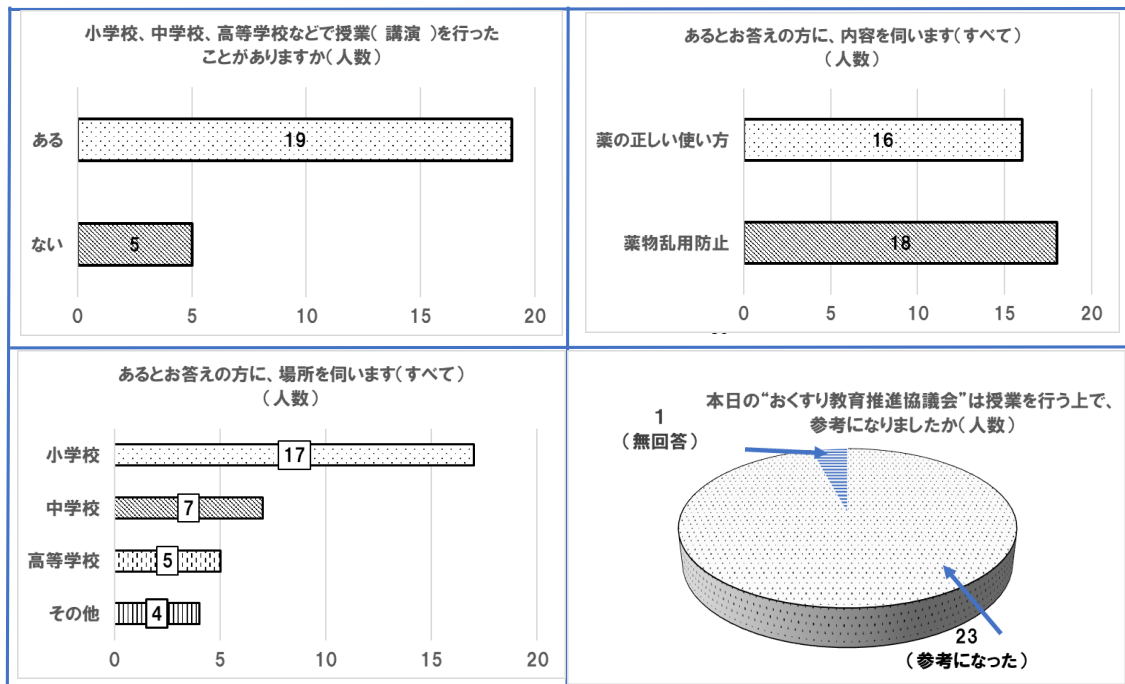
- ・ ネットパイロティング株式会社の各種講座の監修
- ・ 官公庁や行政からの薬物乱用防止に関する問い合わせや相談に対応
- ・ 保健指導リソースガイド「トピックス・レポート」にコンテンツを掲載

別紙資料

▼【資料１】おくすり教育推進協議会 アンケート結果

おくすり教育推進協議会（８）アンケートまとめ

おくすり教育推進協議会（８）（2023/7/15）参加者45名 アンケート24名



おくすり教育推進協議会（８）アンケート（記述）まとめ

ー本会への希望などー

○形式

- ・リモート開催が良いです（複数）。
- ・リモート開催は自宅で貴重なお話を聞くことができるので助かります。
- ・リモートに慣れてしまうとリモートが参加しやすいです。対面のメリットもあるので、意見交換など内容、テーマによります。
- ・リモート開催よりも対面の方が話の内容もスムーズに入ってくる気がします。リモートだと他の参加者の様子が気になり集中しにくいです。
- ・リモート開催、リアル開催、どちらも利点？欠点？があると思いますが、交互に開催するのも…良いかと思います。
- ・リモート開催の際はミュートの徹底は課題ですね。

○内容

- ・オーバードーズについて
- ・今回の「タバコ」のように、薬物乱用のゲートウェイになり得るものに関する内容。

- ・規制物（医薬品、大麻、覚醒剤、危険ドラッグ等）だけでなく、タバコ（特に電子タバコ）や、CBD のような「非規制物」についての内容。
- ・以前学校から、エナジードリンクや電子タバコ・加熱タバコの話も触れてほしいとの要望あり。今後も新しい情報の話を希望。
- ・最近の事情の話題は有意義。情報過多になっている子供たちにどのように伝えていけばいいのか、具体的な例などを参考にしたい。
- ・電子タバコや加熱式タバコは悪いと直感で思われるが、エビデンスが出ていないものをどう話すのかむづかしい。
- ・調剤薬局内では知ることができない話題をこれからも取り上げてください。
- ・実際の授業の様子を見たい。
- ・船田先生のお話、福田先生のお話は毎回目からうろこです。

―意見・感想など―

- ・薬剤師として、エビデンスをもって、学んだ事を伝えていく事の大切を改めて学びました。
- ・薬物に関してはこれからも最新情報を知らせて欲しいです。
- ・どの内容も今後の学校薬剤師の仕事に活かそうでした。
- ・タバコについて知識不足を感じていたので、大変参考になりました。
- ・タバコについては、授業をした事がなく、今回のお話は、とても勉強になりました。
- ・電子タバコと加熱式タバコの違いについて良く分かっていなかったので勉強になりました。
- ・加熱式タバコ、電子タバコについてはあまり知識がなかったので、接触年齢が低い事に驚きました。また、加熱式タバコ、電子タバコの害について学校薬剤師として教育に取り入れていく必要性を感じました。
- ・電子タバコは CBD 販売しているオンラインサイトとの相関性が強いイメージです。
- ・薬物乱用に関しては、家庭環境や基礎疾患が依存を形成する上で重要なポイントですが、それに関して小学校の授業にどう組み込んで込んでいけば良いのか？悩んでいます。
- ・船田先生のお話、根幹のところのお話でためになりました。
- ・米国におけるオピオイドクライシスの話題は、問題が非常に深刻である事を理解しました。日本のポリファーマシーや過剰や不足の現状を考えると、普段の処方動向にも注視すべきだと感じました。この問題を今知識として得る事ができ、大変良かったです。
- ・今日のお話で最近の事情をいろいろと教えていただき、とても有意義な時間でした。実際には、情報過多になっている子供たちにどのように伝えていけばいいのか、悩むことも多いです、具体的な例などを参考にさせていただきたいです。
- ・標語募集に関して、家族で話し合う機会をという考え方が素敵だと思いました。
- ・練馬区全体としては学校薬剤師が実施している校数が横ばい状態ですので、頑張っていかなければとあらためて思っております。
- ・京都から橋本先生も参加させていただいて、ありがとうございました。

【学生より】

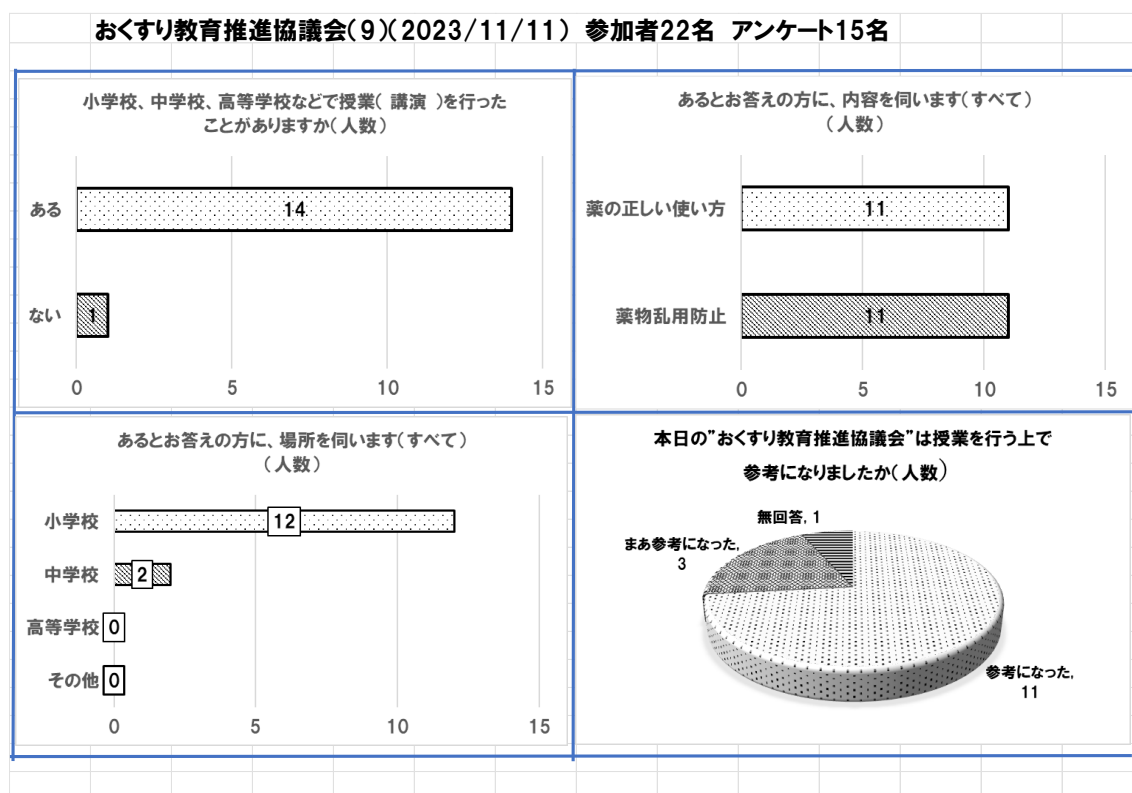
- ・この度は、このような会に参加させていただきまして、誠にありがとうございます。薬剤師の方々が、小学生のおくすり教育に熱意を持って取り組まれていることを知ることが

でき、非常に勉強になりました。本日学んだことを今後の実習および大学生活で活かしていきたいと思います。貴重なお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。

【体験など】

- ・コロナ前は外部講師「中央内科クリニック院長 村松弘康先生」による～加熱式タバコの有害性～を薬物乱用教室として映像を交えて2時間のお話を全校生徒にさせていただきました。その時、電子タバコのお話は僅かしか触れ無かったのですが、水銀、大麻、覚せい剤混入の事が有るとの言葉が私には衝撃でした。諸先生方の今後の研究を期待しております。
- ・今年の1月に6年生対象で薬物乱用の授業をしました。昨年と同様に東京都保険医療局の動画「STOP!!薬物乱用 勇者・ストップ」を使いながら養護教諭と協働で。授業の終わりに少し最近の話題を入れるようにしているのですが、今回は先生からたばこの話をリクエストされました。テレビコマーシャルで電子タバコを扱っているものをみかけて気になっていたところでした。加熱式たばこ、電子タバコ、従来のたばこについて調べ、自分の知識のなさを反省しました。養護教諭と、電子タバコは大丈夫というような誤った印象を持ってしまうないようにとしぼってお話しました。最近のたばこ事情がわかりよかったです。今までのたばここと違うことなので子供たちへの伝え方を工夫していきたいと思います。
- ・どのような形でも開催していただけるのは本当にありがたく感謝しております。ご尽力いただいている先生方に厚く御礼申し上げます。
- ・いつも大変お世話になり、ありがとうございます。様々、ご苦労様です。
- ・最新の内容で、とても勉強になりました。これからもどうぞよろしくお願い致します。
- ・いつもお声をかけていただきありがとうございます。
- ・貴重なお話、ありがとうございました。

おくすり教育推進協議会（9）アンケートまとめ



おくすり教育推進協議会（9）アンケート（記述）まとめ

○内容・構成について

- ・小平の授業事例は Q&A スタイルで子供たちの参加型でとても良かった。
- ・オーバードーズというテーマがよかった。
- ・オーバードーズのディスカッションはためになった。
- ・オーバードーズなど船田先生のはなしは大変参考になった。
- ・小平市教育長の参加に感謝。

○今後の要望

- ・実際に行っている方（経験者）の話を聞きたい。
- ・事例報告だけでなく、よりよい授業になるような検討会があるとよい。
- ・薬物乱用の実態の最新情報が知りたい（船田先生にお願い）。
- ・学校現場での困りごと、学校薬剤師に対する要望などもっと聞きたい。
- ・実際の授業（養護教諭とのコラボなど）を入れてほしい。
- ・学校長、養護教諭、栄養士、学校医の出席もあると、内容の充実、連携にもつながる。
- ・薬剤師以外の職種（学校教員、ドラッグストア職員など）にも参加いただき、連携をとる

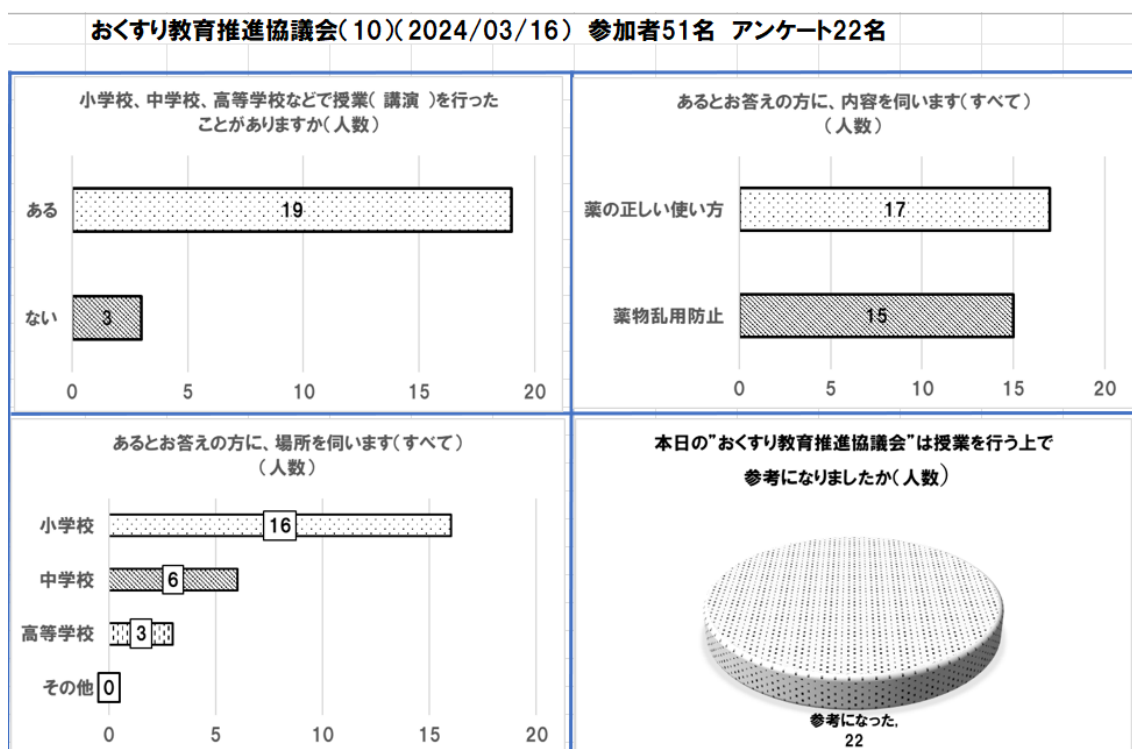
きっかけになるとよい。

- ・オーバードーズに関する授業の進め方、スライド教材についての情報が欲しい。
- ・オーバードーズの内容を盛り込んだ授業例を紹介してほしい。
- ・オーバードーズに関する授業の具体的な方法について聞きたい、話し合いたい。

○感想

- ・参加者が少ないのが残念。
- ・オーバードーズ、薬物乱用の問題を保護者や学校の先生に伝えていくのも学校薬剤師の仕事であることを改めて感じた。
- ・おくすり教育に対する薬剤師の考え方や思いについて学ぶことができた。
- ・SGD があってよかった、今後もあった方がいい。
- ・引き続きよろしくお願いします。

おくすり教育推進協議会（10）アンケートまとめ



アンケート結果（記述）

○構成・内容への要望

- ・最新の情報を頂けると助かります。
- ・引き続き、OD について知りたいです。
- ・オーバードーズを意識したおくすり教育の具体的な例を知りたいです。毎年、授業をしていてマンネリ化しているような感じです。年に 1 回くらいだとつい例年通りになりやすいところがありますので、ちょっとした工夫や表現のヒントをいただけたらと思います。
- ・時代と共に乱用薬物や子供を取り巻く状況も変わってくる為、皆さんがどの様な点を重要視したり、注意しているのか、事例(使用スライドやタイムスケジュール)を交えた意見交換などが出来たら参考になるので嬉しいです。

- ・リモート開催で参加でき、ありがたいです。
- ・リモート開催が良いです。（土曜日は仕事で、帰宅時間が分からないため）
- ・現地に伺っての参加はなかなか厳しいのですが、リモートですと仕事終わりの電車等移動中でも参加出来るので嬉しいです。
- ・顔を合わせる事も大事だと思いますが、リモートの方が参加はしやすいです。
- ・リモート開催の参加しやすさは貴重です。対面の良さもありますが、広く知ってもらうこ

とも必要。なるべく対面、リモートもあり のような設定もありでしょうか…

- ・意見交換は対面で、今回のような講義はリモートが希望です。
 - ・リアル開催での意見交換、リモート開催での講義、どちらも良いと思います。
(年間3回のうち、1回はリアル、2回はリモート、このバランスは良いと思います)
- テーマによっては、養護教諭に参加して頂くことも…

- ・よくある質問集などあると良いかなと考えております。

なぜ悪いのにこの世からなくならないのですか？薬物をやるとどんな罰がありますか？薬物をやってしまったとして、どれぐらいで良くなりますか？など

○感想

- ・最新のニュースや話題を取り上げて頂き、興味深い内容でした。
- ・お二人からのお話は、貴重な情報でした。ありがとうございました。
- ・船田先生、加藤先生のホットな情報や授業の取り組み方が聞けて、勉強になりました。学校からも求められているので、続編が聞きたいです。
- ・大麻の法制度が改正になったが、その内容がよくわかり、とても参考になりました。
- ・大麻の最新情報をお話しいただいたので、授業内容を更新することが出来ます。
- ・大麻の最新の情報、有難うございます。加藤先生の薬の正しい使い方の講演と同様に、私も生徒に添付文章から副作用や用法用量に妊婦授乳婦の話しを加え、自分の健康は自分で守ろうと話しています。また、先生からヒントを頂けたらと思います。
- ・オーバードーズについては、2月の授業で説明しました。児童から、「言葉はよく聞くけど、内容が分からなかったので、分かって良かったです。」と言ってもらえました。
これからも、日々更新出来ればと思っております。
- ・加藤先生の実践内容はとても参考になりました。ありがとうございます。
これからの学校薬剤師としての活動にたくさん生かすことができると思います。
- ・従来の中学のお薬授業では、なまぬるいので、オーバードーズを入れていきたい。
資料使わせて欲しいです。
- ・大変貴重な内容で、今後のお薬教室に役立てたいとおもいます。
- ・とても充実した内容を勉強させて頂き、とても嬉しいです。
- ・今後どうぞ宜しくお願い致します。

- ・学校では、アクティブラーニングとか学校保健に IT の活用とか言われています。

自分の意見をすぐに回答する＝問題を確認し、自分の意見を出す、という行為は、一方通行にならず共有できてよかったと思います。

また、理解度が分かり、説明を付け加えたり、別の方向から話すこともできました。

時間制限がある中、毎年、工夫して理解してもらうには？と考えています。

・このような研修会の参加の機会をいただき感謝申し上げます。

京都府では学校薬剤師だけでなく、病院薬剤師、及び薬局薬剤師の OD に関しての情報共有を進めようという動きがあります。

病院では、OD により救急搬送されて治療にあたるが、その背景までには踏み込めず、また、各薬局でも、販売ルールが徹底されていないことが明らかになったりと、薬剤師としてきちんと取り組むことが必要となっています。学校薬剤師はこのような研修会に触れる機会が多いので、当たり前の問題意識を持つことができます。さらに多くの病院薬剤師・薬局薬剤師が学校薬剤師となり、学校薬剤師が増えることを期待してやみません。

また、こどもたちにとって、正しい知識だけでは、正しい判断につながらない場合があることを、喫煙指導において感じています。

全国学校保健安全研究大会での京都市の川岡東小学校のように 1 年から 6 年までの毎年、段階を追ってくすり教育を行い自尊心を育てる教育の発表がされていましたが、そのように、単発ではなく継続する必要性を感じました。また学校薬剤師だけでなく、様々な立場の方たちと連携をとり、こどもたちの成長に関わっていけるとよいと思っています。（残念ながら、川岡東小学校は学校の先生だけでされて、学校薬剤師は登場しませんでした。）

新しい話題を素早く提供されるこの会を見習って、京都でも来年度も励みたいと思います。

【資料２】小・中・高等学校における医薬品教育など青少年の健康教育に関する活動報告

実施日	分類	内容分類	場所	学校名・団体名	対象	人数
20230405	*授業⇒	薬物高大	東京都	東京薬科大学生命科学部	1年生	180
20230516	*授業⇒	薬物高大	東京都	学習院大学	1年生	70
20230609	*授業⇒	薬物小中	東京都	日野市立平山小学校	6年生	87
20230610	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立長崎小学校	6年生	38
20230614	*授業⇒	薬物小中	東京都	小平市立小平第二中学校	全校	511
20230706	*授業⇒	くすり小中	東京都	小平市立小平第五小学校	4年生	121
20230710	*授業⇒	薬物高大	東京都	学習院高等科	1年生	200
20230714	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立明豊中学校	1年生	148
20230718	*授業⇒	薬物小中	東京都	小平市立小平第五小学校	6年生	118
20230906	*授業⇒	薬物小中	東京都	千代田区立和泉小学校	6年生	53
20230907	*授業⇒	薬物小中	東京都	小平市立小平第五小学校	5年生	114
20230914	*授業⇒	くすり小中	東京都	日野市立東光寺小学校	5年生	49
20231012	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立清和小学校	6年生	70
20231030	*授業⇒	薬物小中	栃木県	壬生町立壬生中学校	1年生	550
20231102	*授業⇒	薬物小中	岐阜県	多治見市立陶都中学校	3年生	170
20231109	*授業⇒	薬物小中	東京都	世田谷区立池ノ上小学校	6年生	50
20231209	*授業⇒	薬物小中	東京都	練馬区立立関町北小学校	6年生	90
20231213	*授業⇒	薬物小中	東京都	小平市立小平第七小学校	6年生	113
20240120	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立朝日小学校	6年生	30
20240120	*授業⇒	くすり小中	東京都	豊島区立朝日小学校	6年生	30
20240125	*授業⇒	薬物小中	東京都	小平市立小平第十二小学校	6年生	90
20240126	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立富士見台小学校	6年生	54
20240129	*授業⇒	薬物小中	東京都	国分寺市立第10小学校	6年生	68
20240203	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立千川中学校	全校生	200
20240207	*授業⇒	薬物小中	東京都	町田市立町田第三小学校	6年生	64
20240215	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立朋有小学校	6年生	86
20240216	*授業⇒	くすり小中	東京都	町田市立木曽中学校	1年生	102
20240219	*授業⇒	くすり小中	東京都	世田谷区立東玉川小学校	5年生	59
20240219	*授業⇒	薬物小中	東京都	世田谷区立東玉川小学校	6年生	61
20240220	*授業⇒	薬物小中	東京都	町田市立鶴川第三小学校	6年生	103
20240220	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立千早小学校	6年生	62
20240228	*授業⇒	薬物高大	東京都	都立豊島高校	1,2年生	600
20240229	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立高南小学校	6年生	61
20240301	*授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立池袋第一小学校	6年生	36
20240304	*授業⇒	薬物小中	東京都	東久留米市立中央中学校	3年生	116
20240308	*授業⇒	薬物小中	東京都	渋谷区立千駄谷小学校	6年生	65
20240311	*授業⇒	薬物小中	東京都	千代田区立麹町小学校	6年生	82
				全 37校		4701

【資料３】指導者研修等の活動報告

実施日	分類	内容分類	場所	学校名・団体名	対象
e230715	*講演⇒	薬物指導	東京都	第8回おくすり教育推進協議会	薬剤師
e230803	*講演⇒	薬物指導	神奈川県	神奈川県薬務課	指導員
e230926	*講演⇒	薬物指導	群馬県	群馬県ライオンズクラブ	指導員
e231102	*講演⇒	薬物指導	岐阜県	岐阜県教育委員会	指導員
e231214	*講演⇒	薬物指導	東京都	渋谷区教育委員会	教員（校長）
e240116	*講演⇒	薬物指導	東京都	渋谷区教育委員会	教員
e240210	*講演⇒	くすり指導	東京都	都学薬	薬剤師
e240218	*講演⇒	くすり市民	東京都	豊島区薬剤師会	市民
e240316	*講演⇒	くすり指導	東京都	第10回おくすり教育推進協議会	薬剤師
				計 9 回	

小中学校における
『おくすり教育』推進のための
『薬の正しい使い方』に関する標語募集事業
及び啓発事業

一般社団法人 日本くすり教育研究所 理事

福田 早苗

啓発事業等名 小中学校における『おくすり教育』推進のための
『薬の正しい使い方』に関する標語募集事業及び啓発事業

一般社団法人 日本くすり教育研究所 実施者氏名 福田 早苗

要旨

1、啓発事業等実施目的

セルフメディケーションを推進していく上で、一般消費者の医薬品適正使用に対する認識を深めることが重要課題と認識されて久しい。この課題に対し、小平市では早期教育が大切だと考え、20年ほど前より市内の小中学校において『薬』という化学物質への認識や『医薬品の適正使用』における意識を高める『おくすり教育』に取り組み、定着させてきた。この事例をひとつのモデルとして当研究所と一般社団法人西武薬剤師会（清瀬市・小平市・西東京市・東久留米市・東村山市で構成）は、令和2年度より『おくすり教育推進協議会』を立ち上げ、小平市近隣のエリアにおいても小中学校での『おくすり教育』の推進と充実を図ってきた。しかし、その成果は思わしくなく、次のアクションプランが必要であると感じた。そこで、西武薬剤師会エリア内の全公立小中学生を対象とした『薬の正しい使い方』に関する標語募集事業を試み、さらに応募された標語を基に参加型教材とする教育内容の改変も検討したいと考えた。

2、啓発事業等実施方法および内容

『おくすり教育推進協議会』は、当初西武薬剤師会に所属している有志が日本くすり教育研究所代表理事の加藤哲太氏と湘南医療大学教授である舩田正彦氏を有識者に迎え“おくすり教育推進協議会企画運営委員会”を編成し協議会の企画運営にあたってきた。活動のさらなる活性化を図るため令和4年度より西武薬剤師会学校保健委員会として活動を展開することになった。

今回の事業説明・募集の告知、入選作品の投票、及び結果発表なども、西武薬剤師会のホームページや年3回共同開催している『おくすり教育推進協議会』にて実施した。

2-1 標語募集事業方法および内容

令和5年7月15日（土）第8回おくすり教育推進協議会（Web）	
	（一社）西武薬剤師会・（一社）日本くすり教育研究所 共同開催 参加者 45名 【内容】基調講演：『これからの禁煙教育 ～電子タバコと加熱式タバコ～』 日本くすり教育研究所 代表理事 加藤哲太 トピックス：『米国における“オピオイドクライシス”からの警告』 湘南医療大学 薬学部 教授 舩田正彦 一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 啓発事業について 日本くすり教育研究所 理事 福田早苗 （①説明用資料添付）
令和5年7月下旬から8月下旬	
	・各市の教育委員会へ事業の趣旨説明、及び協力依頼 ・各小中学校に告知ポスター・チラシ兼応募用紙を配布

	・募集事業の告知ポスターを掲示 (各校の校内、会員薬局店頭、保健所・市役所など公共施設など) (②ポスター)
令和5年9月上旬	
	各校にてチラシ兼応募用紙を児童生徒に配布 (③チラシ兼応募用紙)
令和5年9月29日(金) 応募締め切り	
令和5年10月上旬 応募作品の回収	
	・10月中に各市において予備選考を行い、本選用の小学生の作品10点と中学生の作品10点を選出する。 ・第9回おくすり教育推進協議会に参加する方へ各市で選出された本選用のエントリー標語作品と投票用紙を配布し、協議会の受付にて投票することを案内。
令和5年11月11日(土) 第9回おくすり教育推進協議会(対面) (④写真)	
	(一社)西武薬剤師会・(一社)日本くすり教育研究所 共同開催 参加者23名 【内容】入場時に受付にて標語投票 小平市教育委員会教育長挨拶 小平市教育委員会 教育長 青木由美子 事例報告:『学校薬剤師が参画する「お薬教育(小学校編)」』 小平市立小平第十三小学校 学校薬剤師 中村幸世 小平市立小平第十四小学校 学校薬剤師 照沼知子 総評: 日本くすり教育研究所 代表理事 加藤哲太 グループディスカッション:『どう取り組む? オーバードーズ問題』 取り組みへの提言 湘南医療大学 薬学部 教授 船田正彦 応募標語作品選考開票結果(中間報告) おくすり教育推進協議会 企画運営委員会委員 中田絵美子
令和5年12月23日(土) おくすり教育推進協議会企画運営委員会	
	・優秀作品の最終選考
令和6年2月~3月上旬	
	・入選作品を掲載したポスター(⑤-a・⑤-b写真)、参加賞として作成したポスターと同デザインのカリアファイル(⑥写真)を各校に配布。 ・受賞者への賞状・副賞を在籍校へお届けし、各校ごとに表彰していただいた。
令和6年3月16日(土) 第10回おくすり教育推進協議会(Web)	
	(一社)西武薬剤師会・(一社)日本くすり教育研究所 共同開催 参加者45名 【内容】基調講演:『改正大麻取締法の概要と今後 ～大麻の取り扱いをどうするか?～』 湘南医療大学 薬学部 薬理研究室 教授 船田正彦 トピックス:『オーバードーズにおける事例紹介と問題提起 ～くすり教育・薬物乱用防止教育において オーバードーズ問題をどう扱うか～』 日本くすり教育研究所 代表理事 加藤哲太 標語募集事業結果報告 日本くすり教育研究所 理事 福田早苗

2-2 小中学校における『おくすり教育』推進のための啓発事業

- ①教育委員会、及び各校の学校長への“標語募集事業”協力依頼の文書や事業最後の協力お礼の文書に、本会が『医薬品の適正使用』や『薬物乱用防止』などの学校における教育活動を推進しており、導入のご相談は随時受け付けている旨を記載した。(別紙3)
- ②標語の応募用紙に簡単なアンケートを付記し、服用薬を用意する際にどの程度保護者(大人)が関与しているのか実態調査をするとともに、医薬品の服用時には保護者が関わることの必要性を感じていただきたいと考え、実施した。(⑦アンケート及び集計)

3、啓発事業等成果

3-1 標語募集事業

①西武薬剤師会は前述のように、清瀬市・小平市・西東京市・東久留米市・東村山市で構成されているため各市の教育委員会へ事業参加の協力依頼は各市の『おくすり教育推進協議会』企画運営委員と学校薬剤師会会長の動向に委ねた。その結果、標語募集事業に市教育委員会としてご協力いただいたのは小平市・東久留米市・東村山市の3市、西東京市は薬局単位で参加、清瀬市は日程的に難しいとのことで参加を見送られた。

*参加作品数

		小平市	東久留米市	東村山市	西東京市	計
応募数	小学校	273	188	96	3	560
	中学校	76	812	8	0	896
	計	349	1000	104	3	1456

②入賞作品

最優秀賞 小学生の部 1作品

“くすり”はね 正しく飲めば みんなの味方

中学生の部 1作品

その薬 ルールを守って 健康に

優秀賞 小学生の部 5作品

- ・その薬 自分のためだよ あげちゃだめ
- ・しっかり食べて体を作るよ！でも困った時は力を貸してね お薬さん！！
- ・お薬は 数と回数しっかりかくにん！体のために正しく飲もう！
- ・のみ合わせ 命を守る お薬手帳
- ・良薬も 使用ミスで 悪薬

中学生の部 5作品

- ・薬を飲み過ぎると「どく」に変化するので
一度に「たくさん」摂取しないようにしよう
- ・何のため？ 薬は病気を治すため！
- ・正しく服薬健康サポート
- ・身に付けよう 薬の知識 気を付けよう 飲みすぎ注意
- ・朝昼晩 正しい時間に服用しよう 頼りになる 僕のかかりつけ薬剤師

③入賞作品を掲載したポスターを各校(⑤-a 入選作品掲載ポスター(保健室前))、及び保健所・市役所などに配布し掲示を依頼した。

④医薬品の適正使用の啓発活動として、西武薬剤師会のホームページに掲載していただいたり、会員薬局にて入賞作品を掲載したポスターを掲示していただいたりした。

⑤参加賞として作成した入賞作品を掲載したポスターと同デザインのクリアファイルは、今後市民への医薬品適正使用の啓発活動の際に各市で活用予定。

3-2 小中学校における『おくすり教育』推進のための啓発事業

- ①教育委員会、及び各校の学校長への“標語募集事業”協力依頼の文書を目にされたことをきっかけに『薬物乱用防止教育（薬の適正使用やオーバードーズ問題なども組み込んで）』の依頼があり、中学校で講演を実施した。終了後の生徒の感想文において大変良い反応を得ることができ、担当教職員からも今後も連携していきたいとのご要望をいただいた。
- ②標語の応募用紙に併記して実施したアンケート調査によれば、処方薬においては小学生の13.5%、中学生の31.7%が“自分”で用意すると答え、“家にいる大人の人”と答えたのはそれぞれ84%、65.5%であった。また一般用医薬品においては“自分”で用意すると答えたのは小学生7%、中学生21%、“家にいる大人の人”と答えたのは小学生82%、中学生71.5%であった。おそらく“その他”を選んだ児童生徒はほとんど薬の服用経験がなく、一般用医薬品の項目において小中学生ともに“回答なし”というケースが見受けられたことは、この年代では体調不良の際は病院を受診し処方された薬以外には、薬を服用しないということではないかと推察する。

4、考察

この事業に取り組んだことで薬剤師側から各市の教育委員会に直接『薬』のことや『医薬品の適正使用』について学ぶことの必要性や重要性を伝えたり、『おくすり教育』導入へのアプローチをしたりする良いきっかけになったと思われる。そして事業を進める中で生じる様々な課題において密に連絡を取り、丁寧に対処していくことで教育委員会や事業にご協力いただいた小中学校の学校長をはじめとする教職員との信頼関係が構築できたことも大きな収穫であった。

結果として今回、教育委員会のご協力をいただけたのは5市のうち3市ではあったが、参加の同意は得られないまでも、地域で活動している学校薬剤師が標語募集事業の趣旨を説明しに赴き、『医薬品の適正使用』のための教育を推進しているということを伝え、理解していただく機会を得たということも一つの成果である。特に昨年度はオーバードーズ問題がマスコミに大きく取り上げられたこともあり、『おくすり教育』の必要性や重要性を改めて感じていただけているのではないかと期待している。

また、応募用紙には『おうちの方と一緒に考えていただいてもかまいません』と記載したことで小学校低学年の児童も参加しやすくなり、家庭で“医薬品の正しい使い方”について考えたり話し合ったりする機会を提供できたと思う。

以上のことや、応募された標語作品などから推察すると、本事業は児童生徒のみならず教育委員会職員や学校教職員、そして保護者においても『薬』や『薬の適正使用』について、さらには『薬剤師の存在』やその『役割』について考えたり気づいたりする良い機会になったと考えられる。

一方、アンケート結果より中学生であっても半数以上が服用薬を用意するのは“家にいる大人の人”であり、一般用医薬品においてはその服用経験がない、あるいは服用機会が少ないと思われる生徒が8%近くいることが分かった。医薬品の使用経験が少なく健康な状態を維持できていることは大変喜ばしいことではあるが、利用する機会が少な

いということは医薬品への関心が薄く誤った情報を鵜呑みにしてしまう可能性もあることが懸念される。

誰もが医薬品が必要と感じた時に、医薬品を正しく安全に活用するためには、医薬品への正しい理解とその適正使用への正しい知識や、薬局・ドラッグストアの利用方法、薬剤師の役割や付き合い方を啓発する教育が必要であることを一層強く感じた。

5、まとめ

ある教職員から、医薬品に対する教育を行っていない段階で『薬の正しい使い方』に関する標語募集を行うことに疑問を呈されたとの話題にのぼったが、この疑問こそ今回の活動の狙いであり、本会が推進している『おくすり教育』導入への糸口であると感じている。

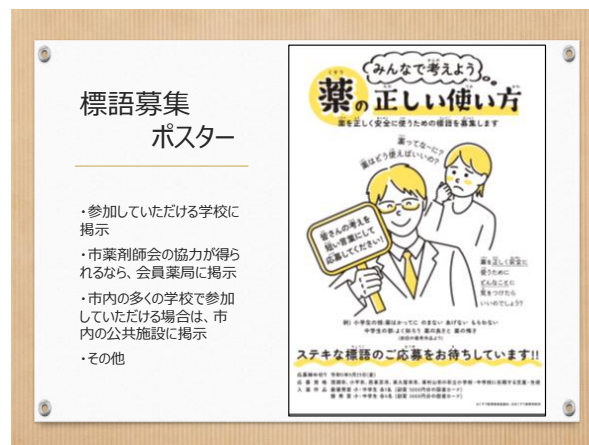
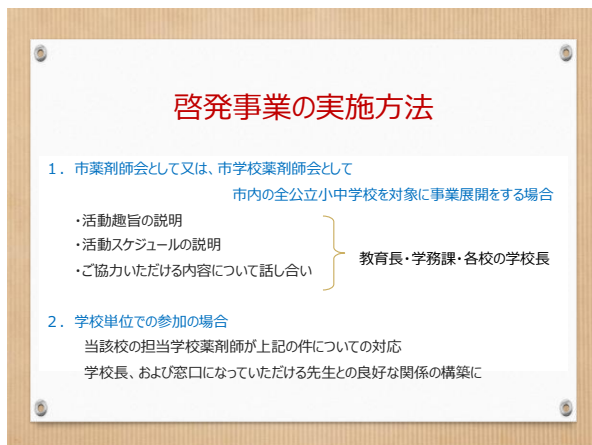
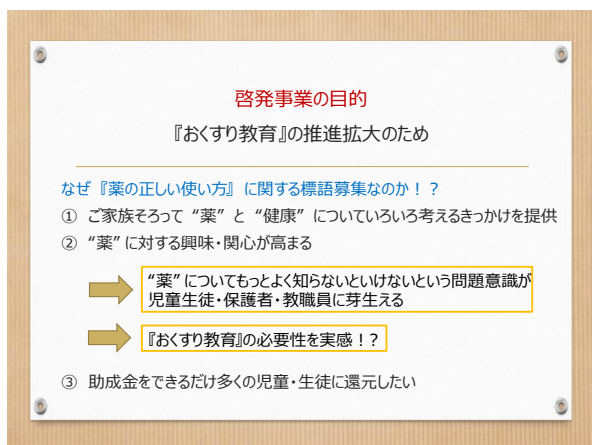
また、国家の医療費削減政策の流れの中で、今後ますますセルフメディケーションが推進され、効果の高いスイッチ OTC 薬などの商品も増えてくると思われる。誰もが正しく安全に医薬品を有効利用し、安心してセルフメディケーションを実践していくためには義務教育の段階で実際に医療に携わる薬剤師が『おくすり教育』を行うことは『医薬品』や『医薬品の適正使用』の啓発のみならず、薬剤師を身近に感じ、健康や薬のことで困った時には薬剤師に相談しようという行動変容に繋がるのではないかと考える。

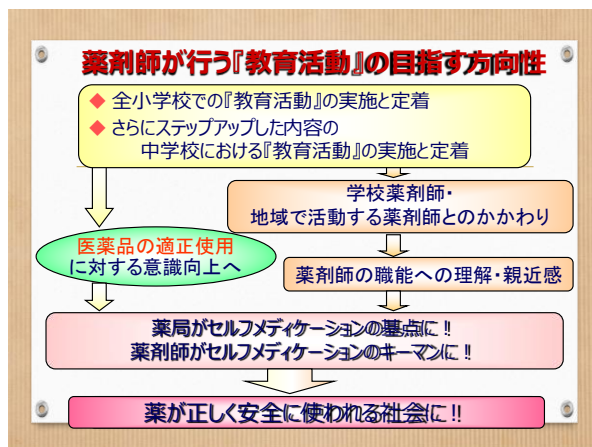
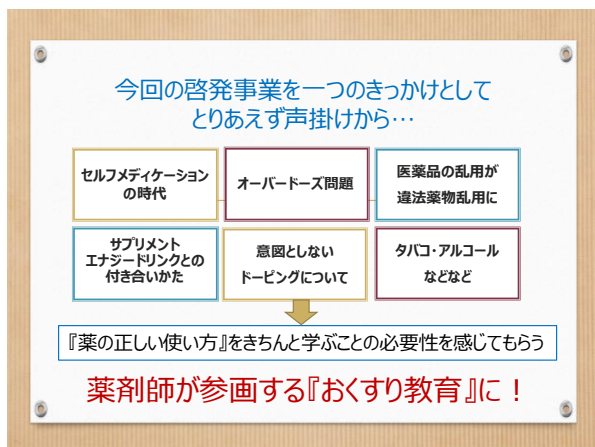
この度作成した入選作品を掲載したポスターは薬局等で掲示したり、同デザインで作成したクリアファイルは一般市民への街頭薬事相談会などの機会に配布したり、『医薬品の適正使用』の啓発グッズとして活用予定である。

本活動中には間に合わなかったが、今回応募された標語を再検討し今後の『おくすり教育』の教材に反映させることでより児童生徒の関心事に寄り添った教育内容に改編できるのではないかと期待している。

今回の活動を通してご応募いただいた小中学生やそのご家族、仲介をしてくださった教育委員会職員、学校長をはじめとする教職員の方々が、『薬』や『医薬品の適正使用』についての知識を習得する意義を理解し、本研究所やおくすり教育推進協議会が推進している『おくすり教育』に対する関心が高まり、その必要性や重要性への理解が深まって、薬剤師が行う『おくすり教育』の導入に繋がることを心より願うとともに、引き続き啓発活動を継続していくことが必要であると考えている。

①説明用パワーポイント資料（西武薬剤師会ホームページ上にも掲載）





②募集用ポスター （保健室前）



③チラシ兼応募用紙

みんなで考えよう。薬の正しい使い方

薬を正しく安全に使うための様子を募集します

（募集要項）

募集対象 高槻市、小中、西宮市、東久留米市、東村山市
の市立小中学校に在籍する児童生徒

入賞作品 募集要項 ①・小学生 各1名
（賞金 8000円分の図書カード）

募集要項 ②・中学生 各5名
（賞金 3000円分の図書カード）

募集締切 令和5年9月29日（金）

※『おくすり教育推進協議会』とは？
高槻市、小中、西宮市、東久留米市、東村山市の薬剤師で構成しており、日本くすり教育研究所
代表理事の加藤雅夫先生、神奈川大学数々の薬学正念先生の協力もいただき、薬剤師が参画する
『薬の正しい使い方』や『薬物乱用防止』を啓発する取組活動を実施している団体です。

（応募方法）

学校名： _____ 市立 _____ 学校 / 学年： _____ 年

氏名： _____

※応募作品※ （おうちの月と一紙に寄せていただいても構いません）

※アンケートにご協力ください。（当ではまるごとお返しはできません）
あなたが『薬』の知識をどのくらい持っているのか？

・ 薬局から処方された薬（部分） ・ 薬に詳しい人（人） ・ その他）

・ 薬局・ドラッグストアで購入した薬（部分） ・ 薬に詳しい人（人） ・ その他）

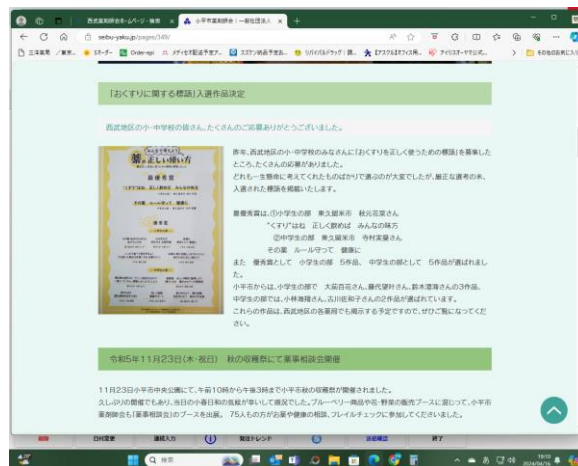
④第9回おくすり教育推進協議会検討会（対面）



⑤-a 入選作品掲載ポスター（保健室前）



⑤-b 入選作品掲載ポスター
（西武薬剤師会ホームページ上にも掲載）



⑥参加賞として作成したクリアファイル

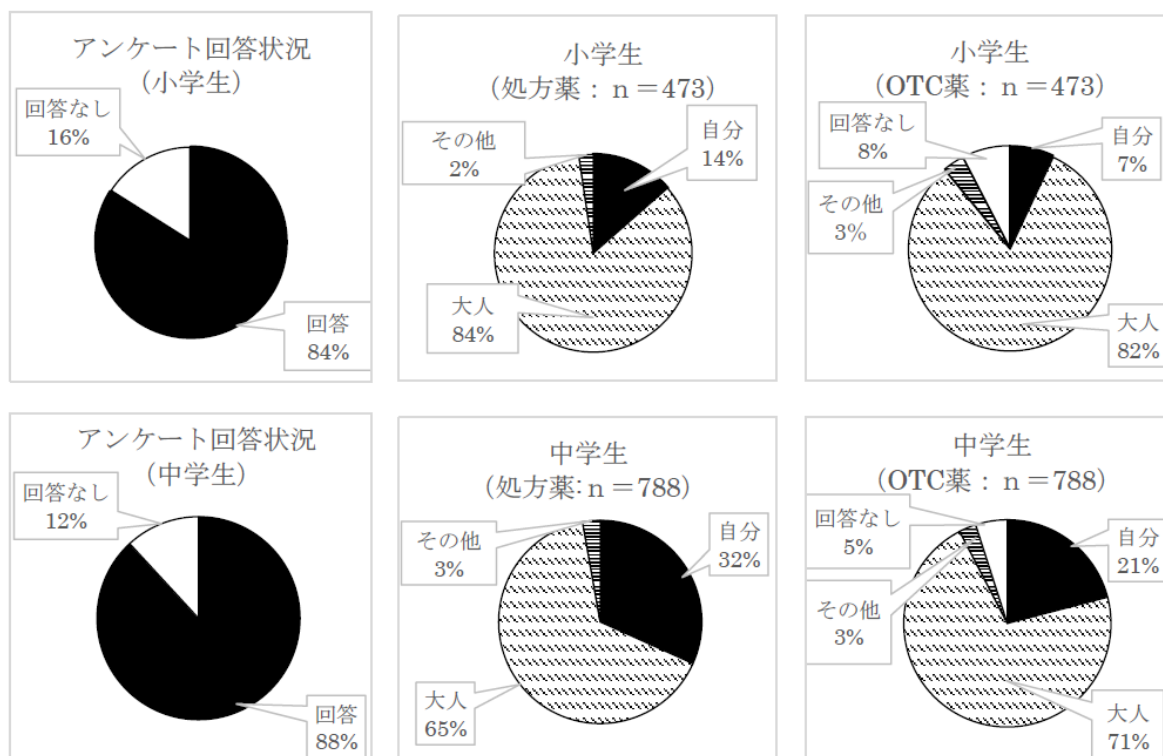


⑦応募用紙に付記して実施したアンケート及びその集計結果

《標語作品応募時に実施したアンケート》

◎アンケートにご協力ください（当てはまるところを○でかこんでください）
 あなたが薬が必要な時にその薬の用意をするのはだれですか？
 ・ 医師から処方された薬（自分・家にいる大人の人・その他）
 ・ 薬局・ドラッグストアで購入した薬（自分・家にいる大人の人・その他）

*アンケート集計結果



☆おくすり教育推進協議会 企画運営委員会委員

有識者 加藤 哲太 日本くすり教育研究所代表理事

船田 正彦 湘南医療大学 薬学部 教授

西武薬剤師会学校保健委員会委員

大槻 健人 西武薬剤師会学校保健会担当理事

米澤 裕二 西東京市

白井 直美 東久留米市

城田 由起子 清瀬市（第9回おくすり教育推進協議会まで）

吉成 礼子 清瀬市（第10回おくすり教育推進協議会より）

中田 絵美子 東村山市

福田 早苗 小平市・日本くすり教育研究所理事

(別紙 3)

平成 6 年 2 月 吉日

○市立小中学校

学校長 殿

おくすり教育推進協議会

会長 加藤 哲太

企画運営委員 一同

謹啓

梅花の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

またこの度は、清瀬市、小平市、西東京市、東村山市、東久留米市で活動する有志の薬剤師と有識者としてご参加いただいている湘南医療大学教授の舩田正彦先生で構成する『おくすり教育推進協議会』と『日本くすり教育研究所』との協働で実施いたしました『薬の適正使用に関する“標語（キャッチコピー）”の募集』への多大なるお力添えに深く感謝申し上げます。

おかげさまで 5 市全体として小学生の部で 560 作品、中学生の部で 896 作品と多数のご応募をいただく事ができました。秀作ぞろいでの選考は難航を極めましたが、厳正なる審査の結果下記の通り決定させていただきましたので報告いたします。

○『一般用医薬品セルフメディケーション振興財団』令和 5 年度助成対象事業
『薬の適正使用に関する“標語（キャッチコピー）”』最終選考結果報告

最優秀賞 (省略)

優秀賞 (省略)

今後も当会では『医薬品の適正使用』及び『薬物乱用防止』への活動を積極的に行っていく所存です。昨今問題となっているオーバードーズ問題や若年者の大麻の乱用問題などを含め『薬の正しい使い方教育（お薬教育）』や『薬物乱用防止教育』の取り組みについてのご相談は随時受け付けております。学校のご予定・ご要望に合わせ、コーディネート致しますので各校担当の学校薬剤師、もしくは下記のおくすり教育推進協議会連絡窓口にご遠慮なくご相談いただけますように宜しくお願い申し上げます。

以上

***おくすり教育推進協議会連絡窓口**

『薬の正しい使い方教育（お薬教育）』や『薬物乱用防止教育』
に関するお問い合わせはこちらにお願いします。

おくすり教育推進協議会
小平市薬剤師会 副会長
福田早苗

mail - address : sanyoph.sanae@gmail.com

FAX : 042-462-5119